

社 会 科

グローバル化に対応した文化産業学習の授業開発

—第5学年「世界とつながる日本」を事例として—

伊 藤 公 一

1 はじめに

現代の日本社会における日本独自の文化様式を国家戦略として世界に広めるクールジャパンという動きがある。

このクールジャパン（「カッコいい日本」）では、これまで日本が海外に発信してきた多くの情報によって、海外における日本のイメージが形成され、同時に日本経済を牽引してきたともいえる。鎌田・中野は「少子高齢化による国内需要の減少、世界市場における競争の激化等を背景とする我が国の厳しい経済環境において、従来我が国の経済を牽引してきた自動車、家電などの基幹産業が苦しい状況にある。そうした中、我が国の生活、文化に根差した魅力であるクールジャパンは、その付加価値を商品やサービスといった形で産業化し、旺盛な需要が期待される」¹⁾としている。

その主なものに「コンテンツ」「ファッション」「衣食住産業」「地域産業等」があるが、このようなポップカルチャーや伝統文化だけでなく、日本人の考え方や生き方にもクールジャパンがある。

このクールジャパンの現状について東京工芸大学は、ネットエイジア株式会社調査協力のもと、全国の15歳～49歳の男女を対象に「クールジャパンに関する調査」のモバイルリサーチを実施している。調査期間は2014年1月17日～22日の6日間、であり、有効サンプルは1,000名である。その結果以下のことが明らかになった²⁾。

クールジャパンとして世界に紹介したい日本文化は何かを尋ねた項目では、「アニメーション」(67.2%)と「マンガ」(62.8%)がいずれもその割合が高くなっている。

そこで、本研究では現代日本の産業を捉えるために、「農業」や「工業」,「情報」等の産業学習だけでなく、今日本で注目されている「文化産業」(その代表的なものとして「アニメ・マンガ」がある)にも着目し、授業開発を行うことを目的とする。

2 「アニメ・マンガ」の役割

海外における日本文化の入口について竹田は、「マンガとアニメに代表される日本のポップカルチャーは、世界に向かって開かれた日本文化の入口ではなかろうか。(略)だが、出口は、日本人が縄文時代から長きに亘って大切に育んできた「和の心」を軸とする日本精神であるべきだ。『入口は低く、出口は高く』という自然なかたちで日本文化の姿を異邦人と共有することができれば、日本は国際的に大きな役割を担ったことになる。」³⁾と述べる。また、アン・アリスンもこの点について「アニメを通じて日本文化に接し、興味をもつ」ことができること、「日本文化に入門するための手がかりとしてのアニメ」とアニメが日本文化のガイドブックとしての役割を果たすことを指摘する⁴⁾。

つまり、日本文化を知ってもらうための方法として、「マンガ・アニメ」の有効であると言える。

3 アメリカにおける「千と千尋の神隠し」

スタジオジブリ作品として2002年アカデミー長編アニメ映画賞を受賞した映画で、米国で評価を受けたアニメに『千と千尋の神隠し』（米国で

は『スピリテッド・アウェイ<神隠し>』がある。この映画を、アン・アリスンは「おそらく20世紀の資本主義を諷刺していて、主人公の千以外のすべての登場人物ははなはだしく利己的で物質主義的だ。対照的に、主人公は一生懸命働き、仲間に忠実であるばかりでなく、質素である。千はまったく消費せず、新しく友だちになったハクからもらった2つのおにぎりを涙ながらに飲みください。おにぎりは日本の伝統的な食べものであり、伝統的な価値を象徴している。」⁵⁾と分析する。そして、この『スピリテッド・アウェイ』が米国で興行的に成功した理由として、映画観賞者の多くが成人であり、子どもたちと同様、大人たちもこの映画に記号化された異文化に興味を覚えたことがあげられる。怖いけどのぞいてみたいあの世に通じる精霊の世界が、近代化されたなじみ深い現代世界と混合されたことに興味をもったのだと考えている⁶⁾。

<「ロール・モデル」としての「千尋」>

一人っ子で甘やかされて育てられているらしく、自分からは何もしようとせず、少なくとも物語の前半においては、不貞腐れて、無気力・無関心で、生気が感じられない。しかし異世界に行った千尋は、そこで初めて生き残るために働くことを知る。そして働く中で、次第に彼女の表情に生気が蘇り、謙虚で、前向きな態度に変わっていくのが印象的である。“働くこと”抜きに“生きること”を語ることができないことを宮崎は示唆しているように思われる⁷⁾。つまりこの映画では、千尋が成長していく姿が描かれている。

この成長物語としてはっきりさせるために翻訳の段階で意図的にセリフを追加した部分がある。物語の最後に、千尋自身の、“I think I can handle it.”（うまくやっていけると思う）というセリフが追加されたことで、オリジナル版には明示されていなかった「主人公の成長」といった要素がはっきりと出されている。

セリフの付け加えは、千尋の成長を強調するとともに、日本文化の表現のあいまい性とアメリカ文化の明示性を背景としている⁸⁾。

父：A new home and a new school? It is a bit scary.

千尋：I think I can handle it.

(父：新しい家に新しい学校。ちょっと怖いね。)

(千尋：うまくやっていけると思うわ。)

取屋淳子は、「“Spirited Away” が成長物語となったことで、アメリカで有名な『オズの魔法使い』や『不思議の国のアリス』と通じるものがあるとされ、(中略)確かに細かい点では異なるところが多い作品であるが、物語の普遍性という共通点により、アメリカの観客は、“Spirited Away” という物語の世界がより理解し易くなったのである。」⁹⁾と述べる。

さて、「ロール・モデル」とは、どのような意味があるのだろうか。この言葉は次のように定義されている¹⁰⁾。

具体的な行動技術や行動事例を模倣・学習する対象となる人材。

多くの人々は無意識のうちにロール・モデルを選び、その影響を受けている。「○○のようになりたい」という憧れは誰しもが持った経験があるだろう。

つまり、「ロール・モデル」とは「模倣すべきモデル」と言い換えることができ、アメリカにおける文化的背景として子ども観においては、「ロール・モデル」となるようなアニメの登場人物が求められているということが言える。

4 日本の「アニメ・マンガ」の象徴

クールジャパンの象徴的な「マンガ・アニメ」のキャラクターに「ドラえもん」があげられている。近年、ポップカルチャーが持つ力の強さに気づいた外務省も、「ドラえもん」を日本のアニメ文化大使に任命している。このことから、日本政府が主体的に日本ポップカルチャーを世界に売り

込んでいることが分かる。さて、「ドラえもん」が、アジア各国を中心に海外進出をしている一方で、アメリカへ進出しなかった理由があった。それは、主人公である「のび太」のキャラクターの評価が分かれるという点である。アジアや中南米では、広く受け入れられている一方で、西洋先進諸国ではこのキャラクターが受け入れられない現状が指摘されている。

具体的には、「のび太」が何か困ったことがあった際に、すぐに「ドラえもん」に頼るところに問題があるとされる。他力本願で、その場しのぎで、不平不満ばかりで甘えている性格が問題視されている¹¹⁾。このことは、それぞれの国の「子ども観」の違いなどの文化的（社会的）背景が関係していると言える。

また、冷泉彰彦はなぜ30年間も「ドラえもん」がアメリカに進出しなかったのかについて以下のように指摘する¹²⁾。

「のび太」という主人公が子供たちの「ロール・モデル」にならないという点があります。何よりも「自信なげで怠惰」というキャラクターが失格ですし、また「のび太が困った時にはドラえもんの特殊能力に依存する」というパターンも自立心を養う上でダメというわけです。

これに加えて、「お母さんの叱り方」が表面的で愛情不足、「ジャイアンなどのいじめ的行動」への全否定ができていない、「しずかちゃん」の描き方にジェンダー上のステレオタイプがある、という具合ですが、全体的には「1つの理念に貫かれた空間」が成立していないということが最大の理由だと思います。アメリカ社会が「小学生レベルの子供に示したい」価値観から外れてしまっていたわけです。（下線—伊藤）

また、横山泰行はドラえもんの公開がテレビアニメの短編ではなく、映画などの長編になった場合には、現在と状況が変わっていたのではないかと述べている¹³⁾。

現在、欧米において、ドラえもん作品の翻訳本がお目見えしている国はスペインだけだ。アジア各国で爆発的な人気伝えられる一方、意外なことだが、英語にもフランス語にもドイツ語にもドラえもんは訳されていない。

いったいその理由はどこにあるかと考えたときに、主人公ののび太がドラえもんやひみつ道具に依存しすぎ、自主独立の気概が欠如しているからではないかとよくいわれる。キリスト教文明において、人生の難事に積極的にチャレンジし、みずからの力で雄々しく解決していこうとする姿勢の欠落は、たしかにあまりほめられたものではないのかもしれない。

これまで欧米に紹介されたドラえもんは、テレビアニメやコミック本によるものだった。つまり短編作品である。もし最初に大長編や映画版のドラえもん作品が紹介されていたら、ヨーロッパやアメリカでももっと受け容れられていたのではないだろうか、主人公みずからの力で厳しい冒険を乗り切り、一人ひとりが一歩ずつ着実に成長していく姿が生き生きと描かれているからだから。

（下線—伊藤）

つまり逆に考えると、子どもたちの「ロール・モデル」になり得るアニメが、欧米社会でも受け入れられる一つの要因になるということが言えるのではないかと考える。

5 日本文化と欧米文化が形成された背景

日本文化が形成された背景として、日本社会はこれまで、多種多様な外来文化を受容しつつ独自の文化様式を形成してきている。柔軟な意識構造に支えられた日本社会は、多様な文化をバランスよく受け入れ、いわば文化の多様性空間として機能してきた。

山折哲雄は、地震がなく安定している土地で暮らしてきた西欧諸国の人々は、客観的に自然を分析して様々なデータを恒常的にとってきた一方で、日本は自然の脅威と対峙してきた「無常観」をも

つ日本人の考え方が、日本文化や日本の歴史、日本の社会系勢力に非常に大きな影響を与え続けていると述べる¹⁴⁾。そして、天地万物に神が宿るといふ多神教の考え方を、日本人が古来から持っていることを指摘している¹⁵⁾。

また、日本人の考え方の根底にある多神教などの神話と文化の関係について河合隼雄は、『神話と日本人の心』および『中空構造の日本の深層』の中で、日本や欧米文化の特徴について、神話の構造が、人間世界のあり方に反映していることについて論じている¹⁶⁾。

日本文化については、日本神話に特質的な「中空均衡構造」である。その特徴は、全体の統合よりも均衡を重視する点にある。中空であるということは、善悪、正邪の判断を相対化し、全体と調和的に存在しておれば許容される。つまり、この構造では「共存」や「共生」がキーワードになる。また、この構造の特徴としては、一神教と比較した場合、一神教は、中心に至高至善の神が存在し、それによって全体が統合されている。欧米の文化は、この一神教（キリスト教、イスラム教、ユダヤ教など）の文化であり、中心に至高至善の神が存在し、それによって全体を統合しようとする「中心統合構造」である。

この2つ構造には、一長一短あり、河合は現代日本の課題として、「われわれが課題とするのは、言うなれば、中心統合構造と中空均衡構造の両立ではないだろうか。（中略）グローバリゼーションの波の高い今日において、日本人が欧米諸国の人々と対等につきあってゆくためには、しっかりとした判断力、表現力、責任感を身に付けた『個人』として自分を 確立してゆかねばならない。」と述べる。そして、一神教的世界観を持つ人は、多神教・アニミズムの世界を本当に理解しようと努力し、多神教・アニミズム的世界観を持つ人は、一神教の世界を身をもって理解しようと努めることの重要性や、自分のよって立つ価値観を、絶対に正しいとするのではなく、異なる体系があることを理解し、それを尊重しつつ、他と対話を重ねることから、21世紀に生きる、われわれの新しい

道が発見されることを主張している。つまり、「中空均衡構造」と「中心統合構造」の両方が重要であり、それぞれが相互理解をするために、対話をしていく必要性を述べている。

日本文化や欧米文化が形成された背景を踏まえながら授業開発をする際に、両氏の考えから多くの示唆を得られるのではないかと考える。

6 授業実践事例

(1) 単元名

「世界とつながる日本のポップカルチャー」

(2) 指導目標

- 我が国の日本文化に関する社会的事象に関心を持とうとする。
- 日本文化に関する社会的事象から学習の問題を見いだして追究・解決し、社会的事象の意味を考え、適切に判断する。
- 日本文化に関する社会的事象について、統計資料等の基礎的資料を効果的に活用することができる。
- 様々な文化を海外へ発信するには、各国の社会的背景や文化的背景が関係してくることを理解しようとする。

(3) 指導計画

- 第1次 クールジャパン戦略による日本文化の発信（1時間）
- 第2次 日本文化としての日本アニメのグローバル化（4時間）
 - 第1時 ジブリアニメ海外進出の歴史
 - 第2時 「千と千尋の神隠し」のグローバル化の概要
 - 第3時 「ドラえもん」のアメリカ進出（本時）
 - 第4時 日本アニメのグローバル化に向けて

(4) 学習過程

学習活動と内容	教師の働きかけ
<p>(1) 「ドラえもん」の世界進出状況を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で放送されている。 ・アジア, ロシア, 中南米に進出している。 ・この地図では, アメリカに進出していない。 <p>(2) アメリカのアニメ市場規模についてのグラフや新聞記事の内容を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの市場は大きい。 ・アメリカ進出をすればもうけが大きくなる。 <p>(3) 学習課題を設定する。</p>	<p>(1) クラス内や日本国内における「ドラえもん」の人気の状況や, 世界進出状況を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界進出マップでは, アメリカに進出していないことに着目できるようにする。 <p>※資料「人気の状況」 ※資料「世界進出マップ」 ※資料「アジア人気アニメ」</p> <p>(2) アメリカの市場規模(映画分野)が大きいことに着目させるとともに, 「ドラえもん」がアメリカ進出までに時間がかかったことについて疑問を持たせ, 課題につなげる。</p> <p>(3) 子どもの疑問から, 本時の学習課題へとつなげる。</p>
<p>「ドラえもん」は日本やアジアで人気なのに, なぜアメリカでは受け入れられなかったのだろうか。</p>	
<p>(4) 「ドラえもん」と「千と千尋の神隠し」を比較しながら, アメリカで「ドラえもん」が受け入れられなかった理由を予想し合う。</p> <p>(5) 「ドラえもん」の内容についての資料をもとに, 予想を確かめるために, 分かったことをまとめ, 共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「のび太」が困ったことがあったら, すぐに「ドラえもん」に頼る。 ・ジャイアンが暴力をふるう。 ・たくさんのどら焼きを食べるところがある。 <p>(6) ロールモデルについての資料をもとに, 分かったことをまとめ, 共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「千尋」は, 最初は頼りないけど, いろいろな困難を乗り越えることで, 成長していく。 ・最後には成長しているから, アメリカで受け入れられた。 ・「千と千尋の神隠し」の最後のシーンで日本版にないセリフがアメリカ版にはある。 ・最後にセリフがあったら, 千尋の成長が分かりやすくなっている。 <p>(7) 本時の課題について, 本時学習したことを, 板書を参考にしながら振り返る。</p>	<p>(4) 「千と千尋の神隠し」がアメリカで受け入れられた事実や背景を示すことで, 「ドラえもん」がアメリカで受け入れられなかった理由を予想できるようにする。</p> <p>(5) 受け入れられるためのローカライズ(現地化)されていることについて, 資料からその理由を読み取れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康志向があり, 暴食のシーンには否定的であること。 ・ジャイアンの暴力的なシーンには否定的であること。 ・主人公がロールモデルにならない。 <p>※資料『ドラえもん』のそれぞれの場面の様子</p> <p>(6) 「のび太」と「千尋」の比較を通して, 「千尋」の成長に気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不思議の街に行く前と行った後の千尋の様子を比べることで, 成長の変化に気づくことができるようにする。 ・アメリカ版の「Spirited Away」と日本版を見比べさせることで, 最後の自動車で去っていくシーンに「(新しい学校でも)大丈夫よ, お父さん。」という千尋のセリフが付け加わっていることに気づくことができるようにする。 <p>※資料「千尋の成長前後の写真」 ※動画「千と千尋の神隠し」</p> <p>⑩ アメリカ社会で日本アニメが受け入れられている状況について理解している。</p> <p>(7) 「ドラえもん」がアメリカで受け入れられなかった理由について, 「千と千尋の神隠し」と比較させることで, 課題に対する考えについてまとめることができるようにする。</p>

7 おわりに

本研究では、グローバル社会に対応した社会科授業の開発を目的として研究を行った。特に、第5学年の産業学習と関連させながら、文化面に焦点化し、その中でも近年注目されているクールジャパン戦略の代表的なものである「アニメ・マンガ」を教材として取り上げ、授業を構成することができた。

しかし、日本やアジア、欧米諸国で「アニメ・マンガ」等の日本文化が受け入れている現状とその理由については学習することができた一方で、それぞれの文化の特徴そのものや、文化が形成された背景にまで十分に迫ることができなかった。この点を踏まえた授業開発を行うことが、文化面におけるグローバル社会についての理解につながるのではないかと考える。今後の課題としたい。

<注および引用文献・資料>

- 1) 鎌田純一・中野かおり「クール・ジャパンの海外展開支援—株式会社海外需要開拓支援機構法案—」『立法と調査』, No. 340, 参議院事務局企画調整室, 2013.
- 2) 「クールジャパンに関する調査」(2014)
(<http://www.t-kougei.ac.jp/static/file/cool-japan.pdf#search>)
「マイナビウーマン」: (2014年2月12日)
(<http://woman.mynavi.jp/article/140212-98/>)
- 3) 竹田恒泰: 「日本はなぜ世界でいちばん人気があるのか」, pp. 26-27, 2011, PHP新書.
- 4) アン・アリスン 実川元子訳: 「菊とポケモン—グローバル化する日本の文化力—」, p. 28, 2010, 新潮社.
- 5) アン・アリスン 実川元子訳: 前掲書, p. 28, 2010, 新潮社.
- 6) アン・アリスン 実川元子訳: 前掲書, p. 29, 2010, 新潮社.
- 7) 伊藤賀永: 「宮崎駿作品『千と千尋の神隠し』に関する一考察—子供の危機と“居場所探し”の物語として読み解く—」, p. 9, 2005, 関東学院大学人間環境研究所所報(4).
- 8) 山田健太郎: 「英語版アニメ作品に見る翻訳の問題—『千と千尋の神隠し』の場合—」, pp. 195-205, 県立長崎シーボルト大学国際情報学部紀要第5号.
- 9) 取屋淳子: 「宮崎アニメのグローバル化: アメリカと台湾における受容の比較研究」,

- pp. 136-145, 2006, 桃山学院大学博士論文.
- 10) MBA 経営辞書 - goo 辞書
(<http://dictionary.goo.ne.jp/mb/>)
- 11) 川口盛之助: 「世界が絶賛する『メイド・バイ・ジャパン』」, pp. 31-33, 2010, ソフトバンク新書.
- 12) 冷泉彰彦: 「プリンストン発 日本/アメリカ新時代」『Newsweek 日本版』(2014年05月22日)
(<http://www.newsweekjapan.jp/reizei/2014/05/30.php>)
- 13) 横山泰行: 「ドラえもん学」, pp. 59-60, 2005 PHP新書.
- 14) 山折哲雄: 「『混沌』と『無常』に見る日本人の人間観と自然科学の精神」, pp. 4-23, 2011, 社会技術研究開発センター.
- 15) 山折哲雄: 『日本人の宗教感覚』, pp. 145-149, 1997, NHKライブラリー.
- 16) 河合隼雄: 『神話と日本人の心』, 2003, 岩波書店.
河合隼雄: 『中空構造の日本の深層』, 1982, 中央公論社.